

聖アンデレ教会のみなさま

平和

春めいていた気配に包まれて過ごしてきましたが、一雨ごとに初夏の香りがつよくなってゆくように感じています。皆様いかがでしょうか。

いましばらく、感染症終息のため、病のうちにある人びと、困難や悲しみのうちにある人びと、また医療と支援にあたる人びととその働きをおぼえて、祈りを続けましょう。

教会の最大の祝祭の期節である復活節・大いなる 50 日間も、おおむね半ばとなりました。まもなく私たちは、昇天日（今年は 5 月 21 日／復活日から数えて 40 日目の木曜日）を、そして聖霊降臨の祝日（同 31 日）を迎えようとしています。

この期間、ご復活からご昇天までの間、復活されたイエス様は、聖書によればさまざまな時や所で、彼に従い歩んできた人たち、彼を慕う人たちの中に姿を現されました。墓に赴いて悲しむ女性たちの傍らに、閉ざされた部屋の中に隠れ留まる弟子たちの中に、湖の岸辺に、また逃げゆくように旅するその道の同伴者として。

復活されたイエス様は、人びとの傍らにあって、衆人の耳目を特別集めるような奇跡や大集会での説教を行ったわけではありませんでした。かえって、挨拶を交わし、共に祈り食し、共に話し励まし、共に歩み、そしておそらく笑顔を交わし……。そのときを生きている弟子たちの営みの中に、またその傍らに時を過ごしてくださっています。それこそが、新たないのちをもって現れた主イエスがなさりたかったことであるかのように思えます。またそんな関わりを神さまが望んでいらっしゃるようにさえ考えられるのです。

苦しいときの神頼み。そして苦しみばかりでなく、さまざまな喜怒哀楽、それをことさら大きく感じたとき、神の存在を思いおこし、良きにつけ悪しきにつけ神の力について考えたりしがちなわたしたちです。そんなわたしたちに対して「わたしはある。わたしはともにいるのだ」とおっしゃってくださる主イエスは、お祭りやイベントのような特別な場面でなく、弟子たちの日常の生活のなかにこそ、復活のみ姿を現されました。わたしたち一人一人の日々の営みの中に、神さまは、その「Life・いのち」そのものの価値を見だし、祝福されているのだと思います。

信仰生活あるいは教会生活は、わたしたちにとって特別なものでもありながら、しかし、決して日常の生活から離れたものではないのです。主と共にあること、主と共に歩み、暮らすこと。ここに大きないのちの祝福が示されています。主にあるみなさんとともに。

2020 年 5 月 8 日

牧師 司祭フランシス下条裕章

世界的な祈りの運動『Thy Kingdom come (み国が来ますように)』のごあんない

昇天日から聖霊降臨日にかけて行われる、この世界的な祈りの運動は、2016 年に英国聖公会に向けて発せられたカンタベリー大主教とヨーク大主教の呼びかけによって始められました。『み国が来ますように』と祈るすべての人々がイエスさまとの交わりを深め、イエスさまの証人となるための自信を新たにし、他の人をイエスさまのもとに導くことを目的とします。

日本聖公会主教会は、昨年 6 月に行われた主教会において、この運動に参加することを決めて、準備をしてきました。みなさまに冊子「11 日間の祈りのしおり」をあわせてお届けいたします。

管区事務所ホームページ <http://nskkiinkai.blog116.fc2.com/blog-entry-702.html> 参照

(冊子「11 日間の祈りのしおり」の印刷物ご希望の方は教会までご連絡ください)